

原子力規制検査の運用改善に向けた研究

(1) 検査制度運用の現状課題の調査

Research on the improving the operation of nuclear regulatory inspections

(1) Research on current issues in the operation of the inspection system

*八木 伸太郎¹, 江藤 淳二¹, 杉野 弘樹¹, 小野寺 将規¹, 中島 清¹, 義澤 宣明¹, 鈴木 清照¹

¹三菱総合研究所

我が国では2020年4月から新検査制度(原子力規制検査)が施行され、本格運用が開始された。著者らは、原子力規制検査の継続的改善を目的にアンケート調査・文献調査を実施し、基本概念に対する理解状況の把握や、運用体系に関する課題認識を抽出した。これらの調査結果に基づき、原子力規制検査制度の実効性を高めるために、様々なステークホルダーと業務改善に関する議論を行う取組を強化する必要性を認識した。

キーワード : Nuclear regulatory inspection, Reactor oversight process, Risk-informed, Performance-Based

1. 緒言

2020年4月から施行された原子力規制検査制度について、2019年度、2020年度と実施された調査(検査業務に携わる職員を対象としたアンケート調査及びインタビュー調査)において確認された理解度及び運用実態などを継続的に把握することに加え、制度の実効性向上に関する継続的な改善策を検討することを目的として、検査業務などに携わる職員を対象としたアンケート調査を実施した。また、原子炉監督プロセス(Reactor Oversight Process : ROP)を実施する米国の改善活動の一つである ROP Enhancement に関する文献調査を実施した。

2. 検査制度運用に係る課題抽出

アンケート調査において、継続して検査官の原子力規制検査に対する理解度がある程度高まっているとの結果が確認された一方で、①新検査制度の実践に係る検査官個人の力量の向上、②廃止措置プラントや再処理施設等も検査の対象となっている、③フリーアクセスや気づき事項・指摘事項に関する事業者とのコミュニケーション・立地自治体や国民等のステークホルダーの間でのコミュニケーション、といった点において課題認識・改善点が抽出された。また、原子力規制検査の実効性の向上には検査官のモチベーションが重要であることが示唆されており、モチベーションを維持・向上するための納得感のある検査制度と運用体系を構築するために、NRCにおける検査官の納得を得るために実施されてきた取り組みに着目することは有効なアプローチであり、ROP Enhancement は NRC 内外のステークホルダーとの議論を踏まえた、ROP を適正化する効率的・効果的な手法である。検討内容は我が国における喫緊の課題であるとは限らないが、ステークホルダーとのコミュニケーションの中で納得感を醸成しながら制度を適正化する枠組みは参考に値する。

3. 謝辞

本研究は、原子力規制庁「令和3年度原子力施設等防災対策等委託費(原子力規制検査の運用の継続的改善に向けた調査)事業」として行われたものである。本稿は著者らの意見を表明したものであり、必ずしも原子力規制庁の見解を反映するものではない。

*Shintaro Yagi¹, Junji Eto¹, Hiroki Sugino¹, Masaki Onodera¹, Kiyoshi Nakajima¹, Nobuaki Yoshizawa¹ and Kiyoteru Suzuki¹

¹Mitsubishi Research Institute, Inc.